

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	☆ (すたあと)		
○保護者評価実施期間	R8 年 1 月 7 日		～ R8 年 1 月 31 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	R8 年 1 月 7 日		～ R8 年 1 月 31 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	R8 年 3 月 18 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>■発達を支える【療育×教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達段階や特性を踏まえながらも、必要なルールや生活習慣を大切に療育を行っている ・できることを増やすだけでなく、社会生活に必要な力を育てる視点を重視した支援を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の中で順番を守る、話を聞く、約束を守るなど、基本的な集団でのルールを大切にしている ・子どもの気持ちを理解した上で寄り添いながらも、必要な場面では適切に声かけや指導を行っている ・職員間で情報共有を行い、支援方法の統一を図っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・療育的支援と教育的支援の両面から、より質の高い支援を目指し、職員研修等を通して発達支援や療育に関する専門性の向上を図る ・職員間で方針を統一し、子どもへの関わりに一貫性を持たせていく
2	<p>■将来の自立を目指して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の自立を見据え、日常生活に必要な力や社会性を身につけることを大切に支援を行っている ・挨拶や言葉遣い、公共の場でのマナーなど社会生活の基礎を日常の中で伝えている 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことはできるだけ自分で行うように促し、自立に向けた支援を行っている ・挨拶や言葉遣い、公共の場でのマナーなど社会生活に必要な力を日常の中で伝えている ・必要に応じて声かけや指導を行い、適切な行動につながるよう支援している 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会体験活動や実生活につながる活動を取り入れ、より実践的な経験を増やしていく ・保護者や関係機関と連携し、将来を見据えた支援の充実を図る
3	<p>■人間性を育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、社会の中で必要とされる人間性を育む支援を大切にしている ・集団活動を通して思いやりや協力的な気持ちを育てている 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や感謝の言葉など、基本的な礼儀を大切にしている ・友達との関わりの中で、相手の気持ちを考える機会を大切にしている ・トラブルが起きた際には職員が仲介し、適切な関わり方を学べるよう支援している 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士の関わりを大切にし、社会性を育む活動をさらに充実させていく ・安心して過ごせる環境を整えながら、規律ある集団づくりを行っていく

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>■支援方針の理解・統一</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所の方針として規律や社会性を大切に支援を行っているため、職員一人ひとりに高い支援意識が求められる。そのため、支援に対する理解や関わり方に差が生じることがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに対して一貫した支援を行うためには、職員自身が支援の目的や方針を十分に理解していることが必要であるが、経験年数や価値観の違いにより支援の目的や方針の理解度に差が出る可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所としての支援方針の共有やケース検討を行い、支援の考え方の統一を図る。
2	<p>■職員の資質・専門性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに対して適切な支援を行うためには、職員自身の人間性や専門性が求められるが、経験や知識の差により、支援の質にばらつきが生じる場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・療育や教育に関する専門的知識や支援技術について学ぶ機会が十分とは言えない場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・内部研修や外部研修の参加を通して、職員の知識や支援技術の向上を図る
3	<p>■厳しさと安心のバランス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所としての方針を大切に支援を行っているが、子ども一人ひとりの特性や気持ちに配慮しながら関わる必要があり、関わり方のバランスが難しい場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達段階はそれぞれ異なるため、同じ対応が適切とは限らない。支援の判断が難しい場面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの特性を踏まえながら適切な関わり方を検討し、事業所と職員間で検討することで安心できる環境づくりと規律のある支援の両立を図る